

策定年月	令和5年4月
見直し年月	令和5年 月

麦・大豆国産化プラン

産地名：安曇野市

（作成主体：
株式会社宮澤ファーム）

1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

【現状と課題】

○大豆

- ・輸入品の値上げに伴い国産、地元産の大豆需要が高まっている傾向にあるが、天候不順等による湿害や乾燥影響が大きく、収量の安定化が難しい。実需者への供給量確保や安定供給に課題がある。
- ・また、乾燥対策するためにはスムーズかつ効率的に灌水をする必要がある。

○小麦

- ・水稻の裏作として小麦作付する場合に湿害を受けやすい。
- ・また、湿害対策として耕起する場合には一定の時間を要するため、適期播種が難しい。

【課題解決に向けた取組み】

○大豆

- ・トラクター運用体系を見直し、効率的に耕うん同時畦立て播種等作業を行い湿害、乾燥対策を行うためトラクター追加導入する。
- ・気象条件に対応し、時間の要する乾燥作業を短期化するため、乾燥機、昇降機導入しローテーション稼働を確立する。
- ・灌水作業をスムーズに行うため、水門設置や水路改修を行う。
- ・単収を増加させるため営農管理システムを使い、衛星データを基に可変施肥マップを作成し、施肥を行う。

○小麦

- ・湿害対策のため、水門設置や水路改修を行う。
- ・耕うん同時畦立て播種を積極的に行い、適期播種を行う。

○小麦(種子)

- ・集約化
- ・営農管理システムによりほ場管理、生産の高度化に取り組む。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針

○大豆

実需者：篠崎商事株式会社、関東穀紛、長野穀販

- ・現地ほ場ほか作柄視察、確認。
- ・直接情報交換を行い、販売情報収集。
- ・令和4年産 篠崎商事・関東穀紛・JA入札販売 55320kg、長野穀販 14400kg

○小麦

実需者：柄木田製粉株式会社

- ・実需者の主催する研修会に参加し、情報収集。
- ・小麦4年産 柄木田製粉 140485kg

○小麦(種子)

実需者：JA全農長野

- ・情報交換や推進、検証を行う。
- ・4年産 種子小麦 JA全農長野63260kg

○共通

- ・ほぼ全量JAまたはJA経由出荷。
- ・事業計画書にて設定した目標値大豆198,720kg、小麦92,001kg、小麦(種子)61,300kgの出荷、取扱を目標とする。

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

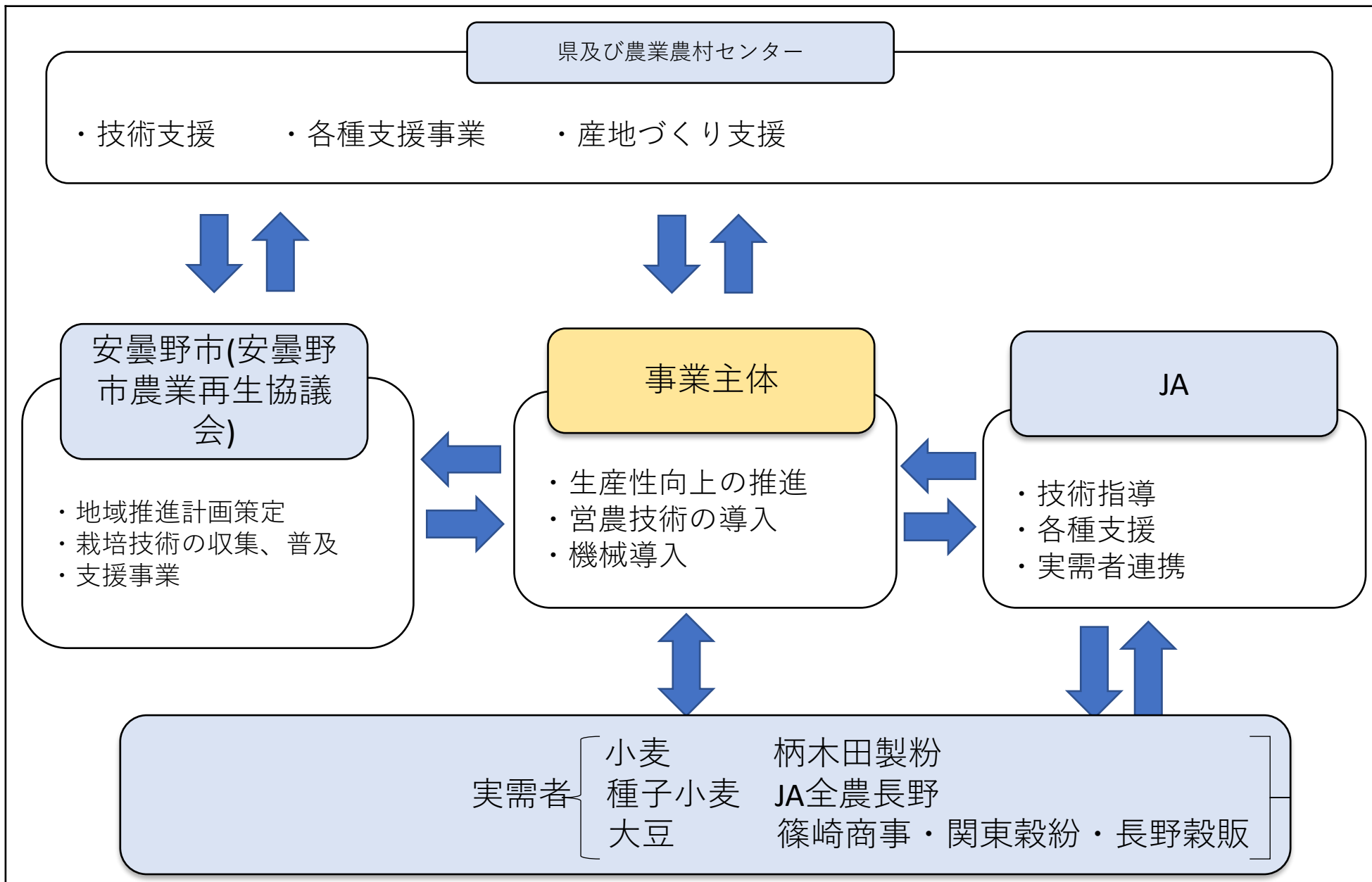
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。